

平成30年度第2回豊山町地域公共交通会議議事録（要旨）

1 開催日時 平成30年11月15日（木）10時15分～11時30分まで

2 開催場所 豊山町役場2階 会議室1

3 出席者

（1）豊山町地域公共交通会議委員出席者

豊山町長	服部 正樹
あおい交通株式会社代表取締役社長	松浦 秀則
名鉄バス株式会社営業本部運行部運行課長	吉岡 実
(代理 計画課 事務リーダー)	平塚 康男)
名古屋市交通局営業本部自動車部管理課主幹	加藤 剛
公益社団法人愛知県バス協会専務理事	小林 裕之
豊山町心身障害者福祉協会役員	河村 君枝
中部運輸局愛知運輸支局首席運輸企画専門官	杉本 忠久
あおい交通株式会社運行課長	工藤 彰郎
西枇杷島警察署交通課警部補	竹内 美智夫
愛知県振興部交通対策課主幹	榊原 仁
名古屋大学大学院環境学研究科附属持続的共発展教育研究センター教授	加藤 博和
名古屋市住宅都市局都市計画部交通企画課長	伊藤 禎浩
名古屋タクシー協会専務理事	多田 直紀
三菱重工業株式会社名古屋航空宇宙システム製作所名古屋総務グループ小牧南総務チーム総務担当課長	清水 信也
小牧市都市建設部都市政策課長	永井 浩仁
(代理 課長補佐)	平野 淳也)
豊山町産業建設部長	佐藤 正司

18名中16名出席

（2）豊山町地域公共交通会議委員欠席者

豊山町老人クラブ連合会元地区役員	伊藤 千歳
愛知県尾張建設事務所維持管理課長	松本 幸次

（3）事務局

豊山町産業建設部地域振興課長	高桑 悟
豊山町産業建設部地域振興課主事	横山 美佳

4 議題

報告事項

- （1）本町における地域公共交通の現況について
- （2）とよやまタウンバス北ルート試行状況について

- (3) 自動走行実証実験について
- (4) 標準的なバス情報フォーマット（G T F S）化について

その他

5 会議資料

- 資料1 本町における地域公共交通の現況について
- 資料2-1 とよやまタウンバス北ルート試行状況について
- 資料2-2 とよやまタウンバス北ルート・エアポートウォーク停留所OD調査
- 資料3 自動走行実証実験について

6 議事内容

(開 会)

司会（課長）： 定刻になりましたので、ただいまから平成30年度第2回豊山町地域公共交通会議を開催いたします。それでは、本会議の会長でもあります、服部正樹町長からご挨拶申し上げます。

(町長あいさつ)

町 長： 本日は、大変お忙しい中、平成30年度第2回豊山町地域公共交通会議に御出席いただき、誠にありがとうございます。

また、日頃から、本町の公共交通施策をはじめ、行政各般にわたり、御理解や御支援をいただいております、この場をお借りして厚く感謝申し上げます。

さて、本日の議題としましては、報告事項4点でございます。「本町の地域公共交通の現況について」、「とよやまタウンバス北ルート試行状況について」、「自動走行実証実験について」、「標準的なバス情報フォーマット（G T F S）化について」、ご報告申し上げ、本町にとりまして、安全で利便性の高い地域公共交通ネットワークを形成するため、委員の皆様の活発な議論や意見交換が行われることをお願い申し上げます。

また、最後にご案内です。年明けの1月13日（日）に、西春日井二市一町合同消防出初式が開催されます。今回は、初めて、名古屋空港内で開催します。多数の方々にお越しいただきたいと考えております。なお、式典会場への入場には事前応募が必要となりますので、皆様どうぞよろしく願いいたします。

以上、簡単ではございますが、私からのあいさつとさせていただきます。よろしく願い申し上げます。

(資料の確認)

司会（課長）： それでは本日の資料のご確認をお願いいたします。お手元の「次第」の裏面に一覧にしてあります。資料に不足などがありましたら、担当が資料をお持ちしますので挙手をお願いします。

（会議公開）

司会（課長）： また、本会議は設置要綱の第5条第5項に、会議は、原則として公開するとあります。会議の議事録などについて、本町のホームページ等で公開させていただきますので、ご承知おきくださるようお願いいたします。

（会議成立の確認）

司会（課長）： 本日は、愛知県尾張建設事務所維持管理課長の松本様、豊山町老人クラブ联合会元地区役員の伊藤千歳様におかれましては、ご欠席との連絡をいただいておりますので、ご報告申し上げます。

本日の会議は、委員の2分の1以上の方（権限の委任を受けた代理者を含む）に出席いただいておりますので、設置要綱第5条第2項の規定により会議は成立しています。

では、議題に入ります。設置要綱第5条第4項に会議の議長は、会長がこれにあたりとございますので、以後の進行につきまして、会長よろしくをお願いいたします。

（報告事項）

会 長： それでは議事を進めさせていただきます。報告事項の「（1）本町における地域公共交通の現況について」事務局から報告させます。

事務局（課長）： （資料1に基づき説明）

会 長： ただいまの報告について、バス事業者さんからも各路線の状況について、補足的に報告等ございましたらお願いしたいと思います。

よろしいでしょうか。では次に、報告事項「（2）とよやまタウンバス北ルート試行状況について」事務局から報告させます。

事務局（課長）： （資料2-1、2-2に基づき説明）

会 長： ただいまの説明について、委員の皆様からご意見やご質問はございますでしょうか。

A委員： 青山からエアポートウォークへの利用は、4日間の調査では少ないと思いますけれども、少ないからと言って廃止にするという方向にいかないように切に願

いたします。青山は交通の非常に不便なところですので、たまたま4日間が少なかつただけだと思うんです。ですから、まだPRが行き届いていないのかなという節もありますので、今後を期待して廃止にだけはならないようお願いいたします。

事務局（課長）： PRにつきましては、今後も北ルートがエアポートウォークへ乗り入れているということの周知がまだ不足しているのではないかというお話がございましたので、町のHP、また町全世帯へケーブルテレビが配信されておりますので、それらを使って周知させていただきたいと思います。

副会長： エアポートウォークは2回停まりますので、2回の合計を見なければいけないわけですが、青山方面から来る場合は表の上のほうで降車、下で乗車となります。今見ると、1日1～2人でずっと推移していますので、もう少し何とかならないかという感じです。少なすぎという印象です。始まったばかりなので、そんなに急には出てこないと言っていると、半年経っていますので、夏にかけて増えなければいけないところが増えていないというのはちょっと問題かなと思います。なおかつ、小牧のほうから人が多いということは、たぶん宣伝すればかなり需要があるような気がするんですが、どちらにしてもこれは1年間の試行なので、来年の4月以降はどうなるか不明ですがもうちょっと乗ってほしい。これだからやめるというのは考え辛いですが、そこだけお願いしたいと思っていて、どういうPRを考えておられるのか確認したいと思います。

事務局（課長）： 今申しました、町HP及びケーブルテレビの活用、それからあおい交通さんともご相談申し上げながら、幹事会でも意見が出ておりましたバス停の時刻表裏面を活用しまして、行き先を表示するような形を考えております。また、ポスター・チラシを作るべく来年度予算を確保したいと思っております。それをエアポートウォークはじめ、できれば小牧市さんや名古屋市さんの公共施設へ掲示していただくようご協力いただければと考えています。まだ事務局レベルの案ですが検討を始めているというところです。

副会長： まず、来年度走るかどうか考えなければいけないので、来年度の話をしてもしようがない。今検討している時間はないと思うんです。誰が一番ターゲットになるかという町民の特に北のほうの人ですので、そちらに説明会をすとか回覧板を回すとかそういうことをしないと、靴の上から足を搔いているようなもので、全然訴求しないということになるんですけど、そういう直接働きかけることをやる必要があるんじゃないですか。

事務局（課長）： 地区の老人クラブの連合会が定期的に会合を設けていますので、その場に出向いてPRをしたいということを担当である福祉課に申し出たいと思います。

B委員： 少し出ましたが、このバス停からどっちの方向に行くのかあまりわからないと思います。名鉄さんは小牧の中で、バス停のポールのところ名古屋方面行きと

か赤いシールが貼ってありますよね。ポールじゃなくても良いので、時刻表の裏にエアポートウォーク方面とか小牧市民病院方面とか名古屋栄方面とか表示すると良いと思います。裏側に貼ってあると、その辺をぶらぶらしている人や車に乗っている人が、このバス停からエアポートウォークへ行けるのかとわかります。シールだったら安いと思います。そういった工夫を一緒になってやれたらなと思っています。

C委員： 北ルートのエアポートウォークへの乗り入れに関しては、青山地区の住民の利便性向上を目的として1年間試行を行ったものです。同時に競合している名鉄バスさんへの影響というのも検証していく必要がございます。報告1の資料を見ますと、西春空港線は非常に伸びておりますが、分析が難しいということもあります。そういったところの分析をしっかりとさせていただきたいと思います。ここが伸びた原因というのを、幹事会の中ではご報告いただいたのですが、今回の議事は公表されますので、改めてご紹介いただけると良いと思います。また、ぜひ多くの方にご利用いただきたいと思いますので、北ルートのPRをお願いしたいと思っています。

D委員： 確かにおっしゃられたとおり、西春空港線そのものがご利用が伸びている状況です。それに引っ張られるような形でタウンバスのエアポートウォークへの乗り入れに関連する影響のある停留所、社会教育センターからエアポートウォーク、空港西、伊勢山西、西豊場のご利用状況を精査しておりますが、西春空港線同様に停留所間だけのご利用も伸びている状況でございます。今現在影響があるかということ、この数字だけ見ると伸びているということになるかもわかりませんが、OD調査にもあるようにタウンバスのご利用がないわけではない。1日だいたい1人から2人の利用があるということだと、運賃の違いもあることから影響がないわけではないということであろうかと思っています。

B委員： 栄から空港行きの路線があるんですが、あいち航空ミュージアムへ多くの方が来ると思っていたところ、なかなか栄便が振るわなくて、去年10便作ったんですけど10月28日から5便にさせていただいて、乗っていない時間帯は半分になりました。県庁からもっと乗ってもらえると良いのですが。でも、無くしたわけではありません。

会 長： ありがとうございます。他の方はよろしいでしょうか。
ないようですので、次に移ります。報告事項「(3) 自動走行実証実験について」事務局から報告させます。

事務局（課長）： （資料3に基づき説明）

会 長： ただいまの説明について、委員の皆様からご意見やご質問はございますでしょうか。

E委員： 自動走行については空港管理者である愛知県航空対策課と調整していただいていると思います。2月頃とはだいたいどのくらいでしょうか。2月の下旬ですか。

事務局（課長）： 候補としては下旬ごろで調整を進めさせていただいております。

E委員： 日にちは1日とか限定されているんですか。

事務局（課長）： 実験は1日です。ただ、その前日にテスト走行を行わせていただきたいと思っています。

E委員： こちらからのお願いを含めてなんですが、今予定をしている構内道路は県の土地で、警察のほうには届けをしているのだと思いますが確か、道路交通法の対象にはならないというところなんですよ。

事務局（課長）： みなし公道ということです。

E委員： バスがミュージアムのほうに来ていて、結構本数が多いので調整をしっかりしていただきたい。レベル3で運転手も乗っていますので良いとは思いますが、充分注意して調整してやっていただくようお願いします。

事務局（課長）： 十分に空港関係者、警察、バス事業者の方々と調整をして慎重に進めさせていただきます。改めてご協力をよろしくお願ひいたします。

B委員： これは豊山町がやるんですよ。あいち航空ミュージアムからMR Jミュージアム間は一般道路ではなく、バスだけなので問題はなくていいんじゃないかと思ひます。三菱さんはマイクロバスを走らせていますよね。これを例えば自動運転でやれば良いのではないですか。あいち航空ミュージアムとMR Jミュージアムは自動運転がされていると言える唯一の場所ではないですかね。短い距離で確実に人が乗ってくれるし、たぶんぶつからない。ミュージアムの宣伝にもなりますよ。三菱さんもドライバーの人件費が浮くんじゃないですかね。

E委員： ミュージアムを作る前に、MR Jミュージアムとあいち航空ミュージアムを繋ぐ何らかの乗り物を検討していたんですよ。ただ、自動走行が良いのかどうかというのは、バスもありますし、構内事業者が結構走ります。意外に走るのだから、その調整が難しいものだから。

B委員： 意外と走るといったって、公道に出ることを予定しているのであればそんなものがあつたって避ける機能がなければ全然だめですよ。

E委員： その検討をしている時点では、自動運転についてはその機能がないということでした。

B委員： 豊山町だけでなく三菱重工さんも一緒となつて将来的な展望の中で、もちろん豊山町主導でやられるんですけど、次は三菱重工さんも入つて自動走行をやられると人件費が浮くということをお願いしたいんです。これぐらいできなければ自動運転どころじゃないですよ。一般的に使われている自動運転をここでやられるとしたら、豊山町や三菱重工さんも日本中の話題になる可能性があると思ひますので、実験ではなくて普通にとつていただきたいと思います。

F委員： 目的のところ、豊山町の公共交通ネットワークの更なる拡充のため、将来の自動運転の実験を行うということですが、具体的には何を想定したものでしょうか。今委員からお話しいただいたようなことなのか、町として何か具体的なイメージがあって、この道で実験をすることが相当のインパクトがある将来の姿が見られるのか、そのあたりのビジョンはおありでしょうか。

事務局（課長）： 一度実証実験をして、そこから検討課題を洗い出せばということが大きな目的です。運用面もそうですが、ハード面、道路整備するにあたって将来自動走行が導入されたときにどのような整備が必要になってくるとか、そういったところも想像の域を出ませんので、そういった課題を洗い出すために始めさせていただければというところでございます。

F委員： 単純に考えると、愛知県等への協力というようなことなんでしょうか。

事務局（課長）： 先端技術のことを豊山町がどうこうというのは僭越な部分もございますので、町としてはやる目的としては町の公共交通ネットワークとして活用するうえで課題を整理して検討していければというところでございます。

G委員： 県の管理道路だから何でもよいというような感じで話が進んでおりますけれども、法的に言いますと一般の用に供する道路という形になりまして、例えば県の管理道路で一般の道路だから無免許で運転して良いという話ではなくて、一般の人が立ち入りできるような状況であります公道でありますので、それなりの安全対策等を行っていただいたうえでの実験になろうと思います。自動走行実験については本部も非常に注視する施策の一つでありますので、詳細が決まりました時点で早いうちに説明等をいただければと思います。関係機関がたくさん関わりますし、2月の下旬だと直近でございますので詳細等を早急に詰めていただいてご説明ください。

C委員： 同時に運輸支局にもご相談をいただいて進めていただく必要があると思います。全く閉鎖された私道であれば良いのですが、一般の用に供される公道という扱いであれば、技術面の部分でご相談いただかなければいけないこともありますので、よろしく願いいたします。

副会長： 国としては、安倍首相が先頭に立って自動運転を国策として推進しているという中で、警察としてもどのように推進していくか考えていらっしゃいます。私もそのワーキングに参加しておりますので、その議論を聞いていましたけれど、そういうことに従ってやっていただきたい。変な事故を起こしますと、そこで止まってしまうということになるので、そういうことにならないようにするのが大切だと思います。公道扱いというのもご指摘のとおりで、バスがたくさん走る道路なので公益性が非常に高い道路なので、そこに混ざって走ることがどうなのかという、むしろそういう実験の位置づけで考えたほうが良いと思います。先日も自動運転をやっている事業所さんとお話をしていましたけれども、公道やみなし公道を走るということは非常に難しいということなので、無理はしないようにしているということでした。F委員のご指摘は自分も思っていることでして、自動運転自体は最終的には大きなシステムとして集約されていくんだろうなと思っていきますので、誰かがぼっと考えてそれがそのまま実用とかで長年使われるという

のはあまり考えられない。規格というものがあるわけで、最初のうちは群雄割拠になるわけですが、だんだんとあるものに集約して行って、皆が使えるものにするという流れです。そうしないと、こっちの車はこのシステムで、あっちの車はあのシステムとなるとそれこそ危ないわけで、集約をどうやってしていくかが大事になります。そこに豊山町が何ができるかということ、あまりできることはないような気がしますが、そこへいく途上の技術、実験場として使っていただく中で、当面は豊山だったらどういうことに使いたいかということ念頭に置いてやっていかないと、ただの実験場だったら走っていたのがあったけれど、実際はここで走っていないよねとなったら悲しいので、そういう意識をしてもらわないといけない。となったときに、B委員のご提案が一番適切かなと思っています。その辺を町としてどう考えているかということ、生活交通ではないので、2つのミュージアムということであれば県と三菱と町でコラボして何ができるかということですが、その辺はどういう打合せをしているんですかね。町と委託事業者の間で進めているという感じなんでしょうか。

事務局（課長）： 実験の場所につきましては、あいち航空ミュージアム付近やMR Jミュージアム付近ということで、話題性ということではございませんが、両施設を結ぶということで選定させていただいたものです。特に、B委員からご提案いただきましたアイデアにつきまして、将来的に活用していただけるのであれば、それはそれで一つの選択肢なのかなと思っていますが、現段階では具体的に三菱様やあいち航空ミュージアム様とそのようなこととお話しさせていただいているわけではございません。町が単独で実験を行う形であります。

副会長： 町でこういうことをやっていることと広めることで町が頑張っていることをPRするのか、アウトカムとしては何が考えられますか。ミュージアムにも話をして、うちの前でやるので一緒に見に来てねとかそういうふうにやっていかなければいけないと思いますが、町単独で宣伝しても弱いですよ。

E委員： 県も補助金を入れるくらいですから、おそらくPRしたいという想いはあると思います。直接的に聞いてはいないんですが、ミュージアムの中の会議室を何らかの形で使いたいというお話を聞いていますので、そういう中でPRをやっていますということを出していくのかなと思っています。冒頭少し申しましたように、ミュージアムを作る際にMR Jミュージアムとの繋ぎも含めて名古屋空港全体をミュージアムというイメージで構想していた中では、今バスが走っている道路を整備しなす前に、仕切りを作ってコンテンツの一つという意味合いで自動走行もしくは自動で運べるものはないかと検討はしていました。ただ、警察等とお話をしたところ、バスが何本も通る状況の中でいろいろなコンテンツ的なものが自由に走るのはいかがなものかということで止めた経緯もありますので、自動走行のレベルがどんどん上がって行って本当にできるような状況になった暁には考えるという話はあるのかなと思います。ですから、PRはやっていただければ良いという想いはあります。

会長： ありがとうございます。他の方はよろしいでしょうか。それでは、PRをしっかりさせていただきながら自動走行実証実験をさせていただきたいと思っています。よろしくお願いたします。

では、次に移ります。報告事項「(4) 標準的なバス情報フォーマット (G T

F S) 化について」加藤先生からご説明いただきます。

副会長： 豊山町の場合はあおい交通さんの路線、名鉄さんの路線、名古屋市交通局の路線、とよやまタウンバスの4つがありまして、小さな町でいろいろあるため運賃の問題等が出てきて、この会議の重要性がそこにもあるわけですが、もう一つの問題としてはいろいろなバスが走っているの、利用者がどれを使っていいか迷うということです。そういうことに対してどうしていけばよいかと考えたときに、名古屋市交通局さんや名鉄バスさんはそれぞれのホームページで乗り継ぎ検索システムがあるんですが、外国人がそれを使うとなると英語対応をしていたとしてもそのホームページに行けないという問題があります。世界中で一番検索されているのはG o o g l eなんですね。ですから、G o o g l eに「名古屋駅 名古屋空港 バス」と入れると、どのバスに何分に乗ったら行けるか出てくるのが望ましい方向だろうと思っています。日本の場合は公共交通が発達しているので、事業者ごとでシステムを作るということをやってきましたし、民間の会社が情報を自分たちで集めて検索できるようなシステムを作っています。ただ、それぞれの会社でデータをどのように作るかが違っているの、混乱する要因となっています。国土交通省がどんな会社でも使えるオープンデータを作ろうとしています。そういうフォーマットを作ろうということで、G T F Sと言っていますが、General Transit Feed Specificationの略で、公共交通に関する一般的な情報提供を行うフォーマットのことを言います。それを国交省のほうである程度規格化しているということですが、直接的にはG o o g l eでの検索に対応しているということです。今はG o o g l eだけでなく様々な乗り換え検索に対応できるように整備していただいているという状況ですので、G T F Sのフォーマットに準拠して時刻表を作って、オープンデータとして置いておけば、業者は使いやすいように変換して活用しますので圧倒的に検索される可能性が高まるということになります。

バスロケーションシステムについても同じで、検索されても時間通りに走っていないとその時間に行っても走っていないということになるので、問題になります。それで、タウンバスでもやっているんですが、今どこにバスが走っているかという状況をインターネットに載せて、アプリみたいなものを通すとバスがどこに走っているか地図上に表示され、何分遅れているとか、何人乗っているとかそういう情報が表示されるシステムも全国ではやっています。というのがこれからのI Tの活用なんですね。その先駆けを豊山町でもできないかと考えているということです。豊山町はいろいろなバス事業者があるので、一つのバス事業者だけ見ても使い勝手が悪いし、空港から乗る際にもいろいろな路線があってどれに乗ればいいかわからないということがあるので、この場合はこれが一番良いというのを選ぶことができるようにするにはG T F Sでオープンデータを出していかなければいけません。それを推進していけるように町とも話をしていますし、あおい交通さんとも別途、特に県営名古屋空港のバスはきちんと検索されないと非常に問題だと思っています。空港バスはダイヤ改正が多いので、そういう時に他の民間事業者がやっている、変更を知ってから変換作業をして載せるとなるとただでさえ時間がかかるのに、あおい交通さんからの情報提供が遅いと作業が間に合わなくて、改正されているのに古いダイヤが出ていて不利益を被る人が出るといけませんので、自分の会社で作ってオープンデータで出さなければいけないんじゃないかということであおい交通さんにスキルを付けていただくようお願いしています。そうするとタウンバスも同じようにあおい交通さんが運行

して、名古屋から豊山へ来ていただくための路線として使えますので、きちんと検索できるようにオープンデータであるとかG T F Sの標準データ化を進めていきたいということです。

これはついでですが、愛知県のほうでも推進を行っているようで、全国的には県が主導してバス事業者に作るように依頼したり、作れないのであれば県のほうで業者委託してデータを作ることをやっているところがあります。しかし、業者委託して作ってもらうと次に改正した時にその委託は終わっているのに、古いデータが載り続けるということが全国各地で起こっていて、そういうことが起こるんだったら最初から載せていないほうが良いということになったりします。ですから愛知県ではそういうことにならないように。ちなみに愛知県では交通対策課とは全く別の課がやっていますが、豊山町はそれはともかくとして県営名古屋空港があることと4つのシステムがあるということから、必要性や緊急性が高いと思っていますので、推進していけると良いと思っています。

また、G o o g l eで検索しますと例えば名古屋駅のミッドランドのところにタウンバスが着くと、そこから名古屋駅の新幹線はどういう経路で行くかという徒歩の経路と時間も全部出ます。他の検索システムだとオプションで有料だったりするのですが、G o o g l eは無料なのでよく検索されます。

ついでに、空港バスや名鉄さんのバスで豊山町社会教育センターとか豊山幸田というバス停の名称を付けていただいておりますが、知名度向上につながるのではないかと改めて思っていて、以前私がこの会議に入ったときは豊山町の中に豊山と名の付く停留所がなかったのですが、豊山という地名を出すことで知名度向上やブランディングに貢献できたのかなと思っています。そうなったときに、豊山にどう行くかとなったら「豊山 バス」と検索できます。バス停に地名が入っていなければ検索されませんので、そういう意味では良い変更ができたと思っています。

会 長： ただいまの説明について、委員の皆様からご意見やご質問はございますでしょうか。

E委員： 情報企画課というところがあいち電子自治体推進協議会というのを持っていて、そこでG T F S化を進めようとしています。協議会には豊山町も入っております。分科会という形で共通課題研究会オープンデータ分科会として進めております。協議会としては全市町村のデータを委託して作るということなんですけれど、それだけだと先生がおっしゃられたように更新するときに非常に大変だということで、なるべく簡単な更新の仕方をしようということで、先行してやっている日進市等のノウハウを入れながら、自前で更新できるようにノウハウを見つけていただくようにしたいという話をしています。交通対策課はオブザーバーとして入っていて、先日も担当者が参加して意見を言ってきました。特にg o o g l e m a pへの登録だけではなかなか難しく、バスがどういうところを動いているかという状況の中でs h a p eデータ、経路情報などもわかるようにしなければいけないという意見を言いつつ、それがうまく反映できるようにやりたいと言っています。この研究会についてはもう少ししっかりやるということで、来年早々ぐらいには勉強会を立ち上げて進めていきたいと思っています。豊山町は加藤先生と一緒に少し先方を行っていますので、そのノウハウもまた教

えていただく形になると思います。

副会長： 繰り返しになりますが、豊山町は先行させる意義がある町だと思っていますので、どんどんやっていただいたら良いと思います。

C委員： 11月2日に運輸支局のほうで公共交通シンポジウムを開催しまして、GTF Sについても情報発信をさせていただいて、いろいろなところでサポート体制があることをご案内させていただいたところです。その中で自治体のパネラーさんがGTF S化したことで外国人のみならず若い人も検索して来るようになったということで、こんな辺鄙なところに何故大学生が来たのか運転手の方に聞いたところ、googleで調べたとおっしゃっていました。やっぱりいろいろなところで影響があるのだなということで、その自治体の方は自前でいろいろな講師を招いて勉強しながらやったという話がありましたので、是非推進をお願いしたいと思います。

副会長： 中津川の話でしたが、中津川の馬籠は非常に外国人の方が多く来られます。外国人の方は日本の乗り換え検索は全く使えないので、全部googleで検索して来ます。観光、特にインバウンドはそこで全く違ってしまう。それが豊山だと空港があるので、外国人の方がスムーズに乗り換えていただけるよう、それから豊山町を通るので豊山を印象付けるというためにはGTF S化はやっていかなければいけないと日々感じております。

会 長： 他の方はよろしいでしょうか。では、その他に入ります。委員の皆様から何かございますでしょうか。

(その他)

F委員： GTF Sにつきましては、検索するとタクシーも呼べるようになっています。また、今日の夜10時からテレビ東京系のカンブリア宮殿で東京のタクシー事業者のIT化についての番組がありますので、ご関心のある方は是非ご覧ください。

会 長： 他の方はよろしいですか。それでは、事務局から何かあればお願いします。

事務局(課長)： 第1回地域公共交通会議の中で、市バスの延伸について逐次報告をしたという話がありましたので、進捗についてご報告いたします。4月に名古屋市交通局様へ町として要請させていただいて、その後名古屋市交通局様のほうから課題について検討していきましようとお声がけいただきました。会議の後に1回、名古屋市交通局様のほうへお邪魔して打ち合わせをさせていただいているところです。詳しくご報告するというところまでには至っておりませんが、そのような形で会を持っているという状況です。

会 長： 以上を持ちまして、本日の議事を終わらせていただきます。委員の皆様のご協力にお礼を申し上げます。どうもありがとうございました。それでは、事務局にお返しします。

(閉会)

事務局（課長）： ありがとうございました。以上をもちまして、平成30年度第2回豊山町地域公共交通会議を閉会いたします。ご協力、ありがとうございました。